

岡山県感染症週報 2015年 第9週 (2月23日～3月1日)

岡山県は『インフルエンザ警報』を解除し、
『インフルエンザ注意報』に切り替えました。(3月5日)

◆2015年 第9週(2/23～3/1)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第7週	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(90代 女)
第8週	2類感染症	結核	5名(60代 男 1名、70代 男 1名、80代 女 1名、90代 女 2名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(70代 男)
第9週	2類感染症	結核	3名(30代 男 1名・女 1名、70代 女 1名)
	4類感染症	A型肝炎	2名(20代 男 1名、40代 女 1名)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名(30代 女)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(70代 男)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で382名(定点あたり7.70→4.55人)の報告があり、前週より減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で380名(定点あたり6.48→7.04人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で114名(定点あたり1.91→2.11人)の報告があり、前週より増加しました。

【第10週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が9施設でありました。(3月2日～4日)
- 和気町の小学校1校で、感染性胃腸炎による学年閉鎖がありました。(3月5日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で382名(定点あたり7.70→4.55人)の報告があり、前週より減少しました。県全体の定点あたり報告数が2週連続して10人を下回り、警報の解除基準をみたしたことから、3月5日、岡山県は「インフルエンザ警報(1月15日発令)」を解除し、「インフルエンザ注意報」に切り替えることとしました。地域別では、真庭地域(8.33人)、倉敷市(7.44人)、備中地域(6.83人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、14施設でありました。県内の発生状況など詳しくは、「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で380名(定点あたり6.48→7.04人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。依然として多くの患者が報告されています。地域別では、岡山市(9.36人)、備北地域(9.25人)、真庭地域(8.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「**感染性胃腸炎週報**」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で114名(定点あたり1.91→2.11人)の報告があり、2週連続で増加しました。過去10年間で最も多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。

3月1日(日)～7日(土)は「子ども予防接種週間」です。
4月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませましょう。

我が国では、保護者を始めとした地域住民の予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を図るため、毎年3月1日～7日を「子ども予防接種週間」とし、さまざまな企画や啓発活動を実施しています。

岡山県でも、この期間内に、趣旨に賛同した医療機関では、ワクチン接種を行うとともに、ワクチン接種に関する相談にも応じています。また、医療機関によっては土曜日、日曜日等、通常の診療時間外の接種も行っています。

[「子ども予防接種週間」について](#) (国立感染症研究所ホームページ)
[岡山県内の協力医療機関一覧表](#)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少 : 1.1~2倍未満の減少 : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加 : 2倍以上の増加

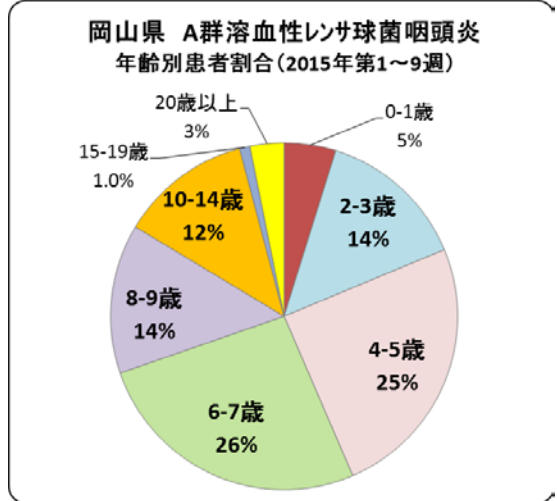
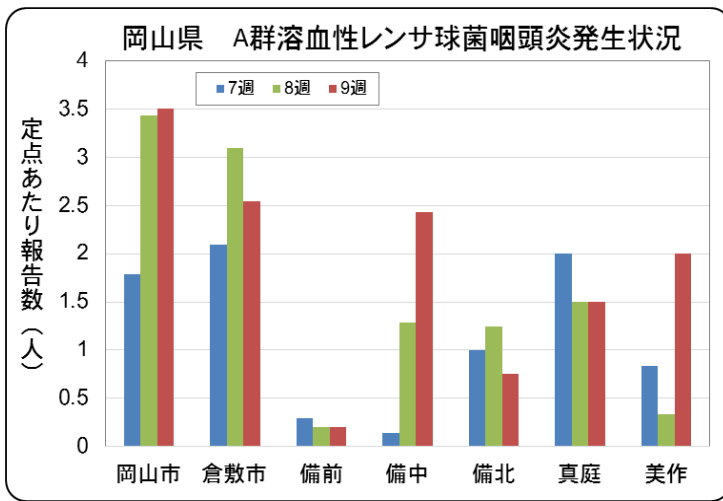
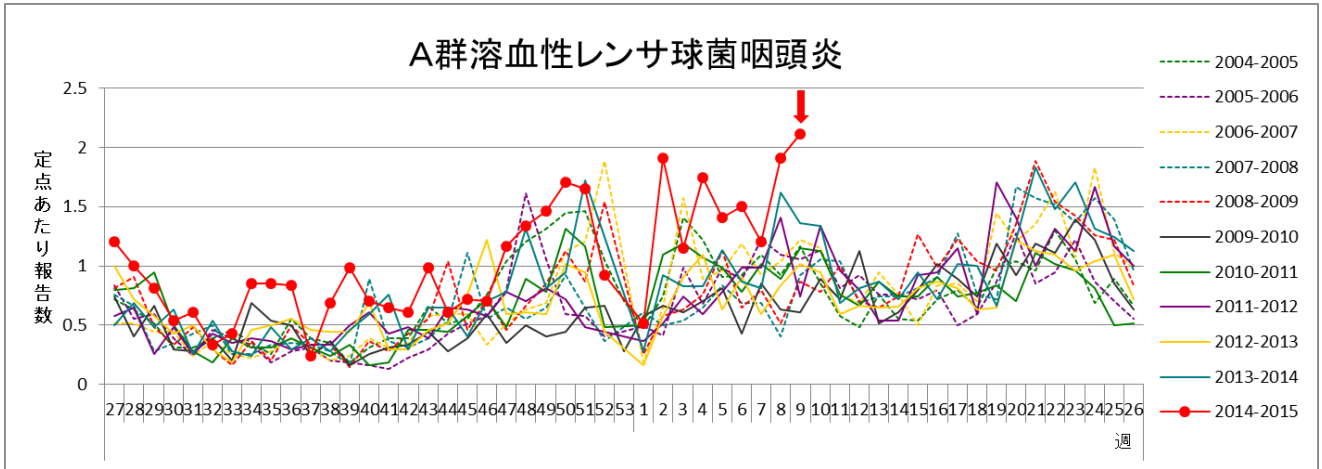
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

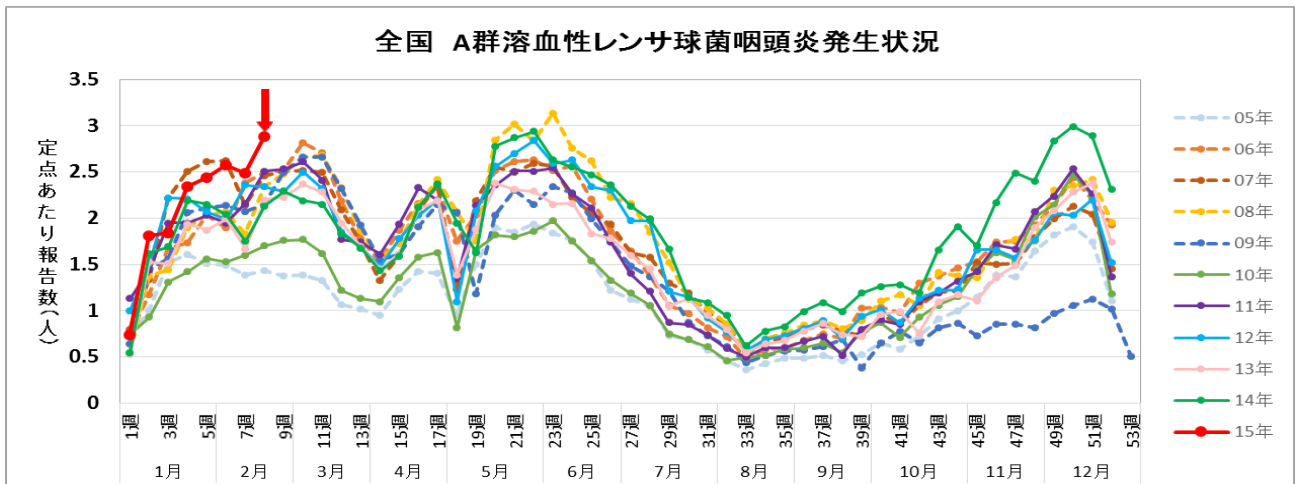
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

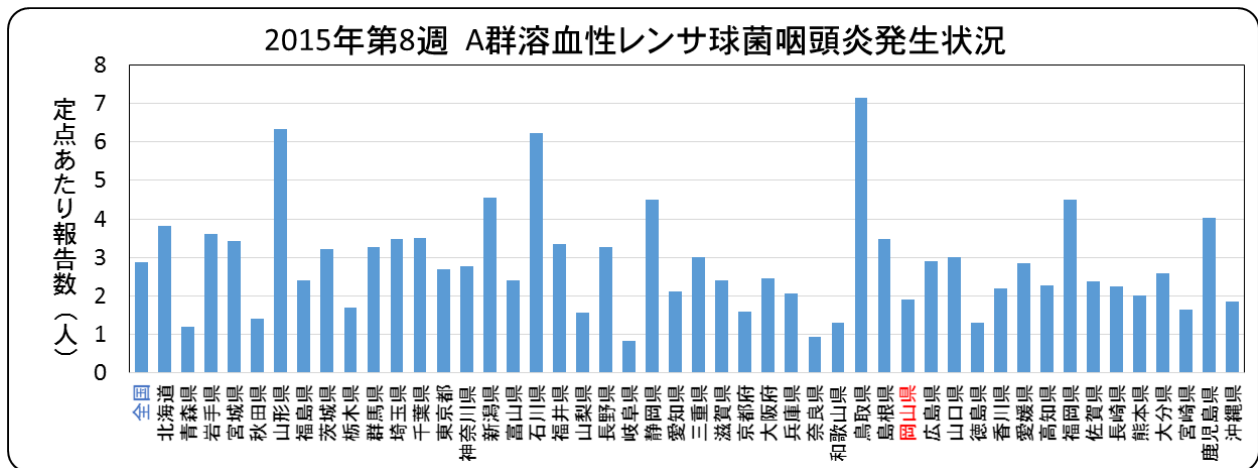
【岡山県の発生状況】



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で114名（定点あたり1.91 → 2.11人）の報告があり、2週連続で増加しました。過去10年間でもっとも多い状態です。地域別では、岡山市（3.50人）、倉敷市（2.55人）、備中地域（2.43人）の順で定点あたり報告数が多くなりました。備中地域（1.29 → 2.43人）、美作地域（0.33 → 2.00人）では前週より大きく増加しています。2015年第1週からの年齢別累計割合は、6-7歳26%、4-5歳25%、2-3歳及び8-9歳14%の順に多くなっており、10歳未満の小児が全体の約84%を占めています。

【全国の発生状況】





全国の2015年第8週までの発生状況を見ると、定点あたり報告数は第2週（1/5～1/11）から増加傾向にあり、第8週は過去10年間の同時期と比較してもっとも多い状態です。都道府県別では、鳥取県（7.16人）、山形県（6.34人）、石川県（6.24人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも、多くの患者が報告されているため、ひきつづき今後の県内の発生状況に注意してください。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道感染症です。感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2つの報告数のピークが確認され、就学前から学童期の小児に多い感染症です。

【症状】

潜伏期間は2～5日で、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしば嘔吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌（イチゴのように赤くブツブツしている舌）がみられることがあります。通常、発熱は3～5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失する予後良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後12～24時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮疹が出現し、針頭大の皮疹により、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも10日間は、確実に投与することが必要です。予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい・手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所）](#)

[IDWR 2012年第20週 <注目すべき感染症> A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（国立感染症研究所）](#)

インフルエンザ週報 2015年 第9週 (2月23日～3月1日)

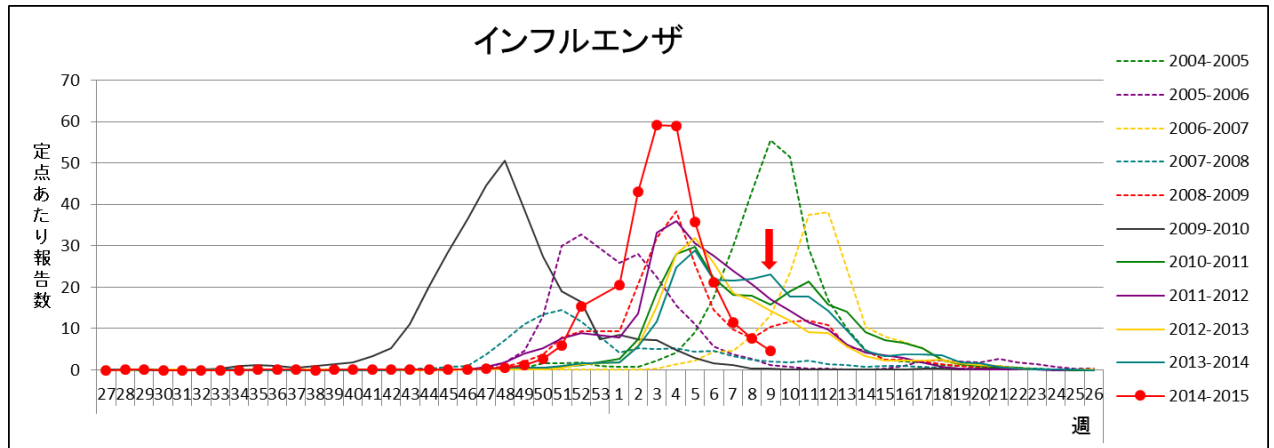
岡山県は『インフルエンザ警報』を解除し、
『インフルエンザ注意報』に切り替えました。(3月5日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で382名(定点あたり7.70 → 4.55人)の報告があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が14施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第10週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が9施設でありました(3月2日～4日)。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で382名(定点あたり7.70 → 4.55人)の報告があり、第3～4週をピークに5週連続で減少しました(84定点医療機関報告)。県全体の定点あたり報告数が2週連続して10人を下まわったことから、3月5日、岡山県は「インフルエンザ警報(1月15日発令)」を解除し、「インフルエンザ注意報」に切り替えることとしました。(警報の解除基準:2週連続して、定点あたり10人を下まわった場合)

地域別では、真庭地域(8.33人)、倉敷市(7.44人)、備中地域(6.83人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ほとんどの地域で患者の減少がみられましたが、依然として学校等の臨時休業も報告されており、今後も県内の流行は、しばらくつづくと思われる。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザは依然として流行期にあります。
ひきつづき感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな?という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

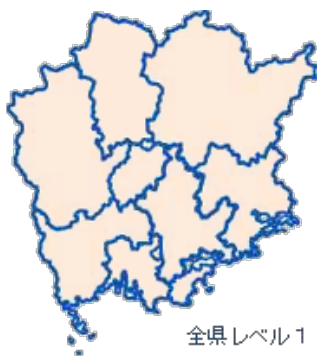
1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	382	↓	備 中	患者数	82	↓
	定点あたり	4.55			定点あたり	6.83	
岡山市	患者数	49	↓	備 北	患者数	32	↓
	定点あたり	2.23			定点あたり	5.33	
倉敷市	患者数	119	→	真 庭	患者数	25	→
	定点あたり	7.44			定点あたり	8.33	
備 前	患者数	47	↓	美 作	患者数	28	↓
	定点あたり	3.13			定点あたり	2.80	

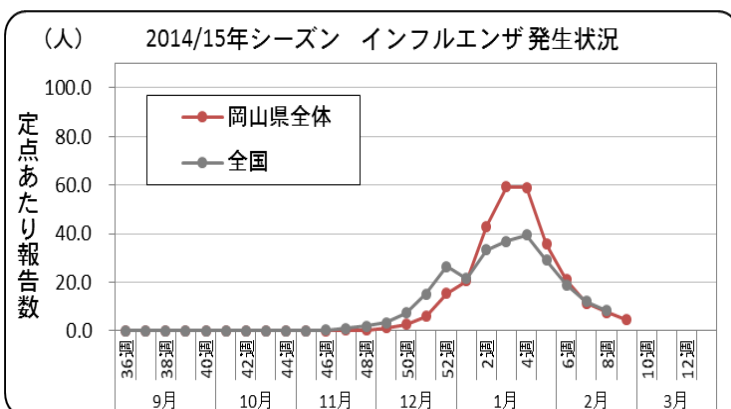
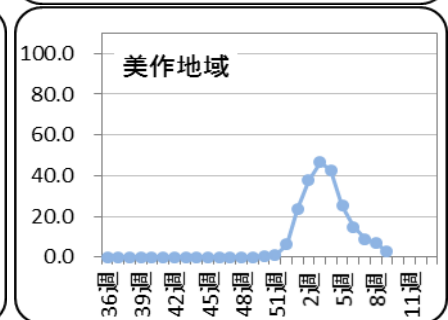
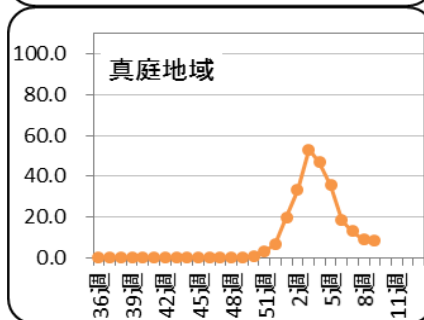
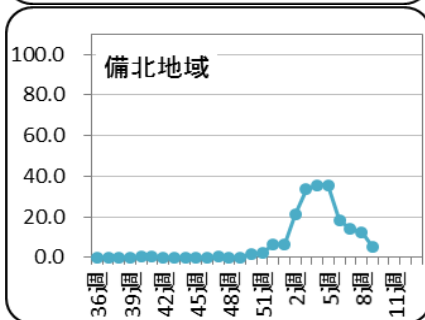
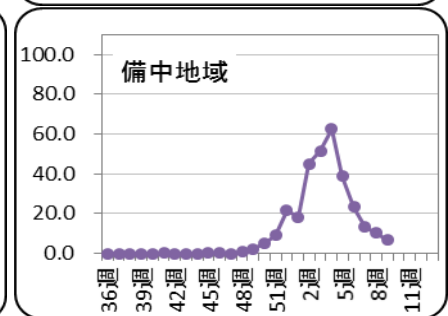
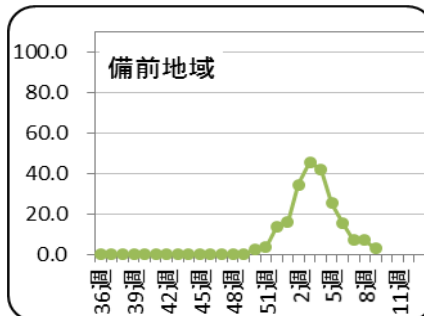
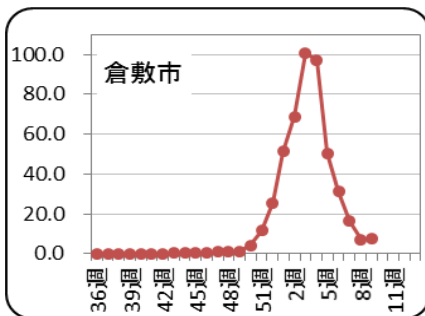
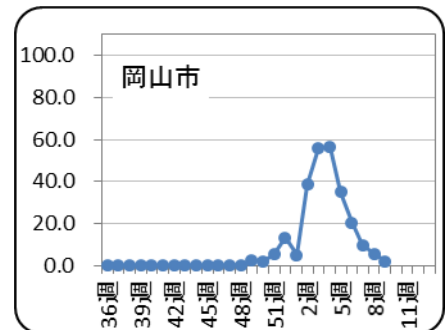
【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →
 1.1～2倍未満の増加 → 2倍以上の増加 ↑

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

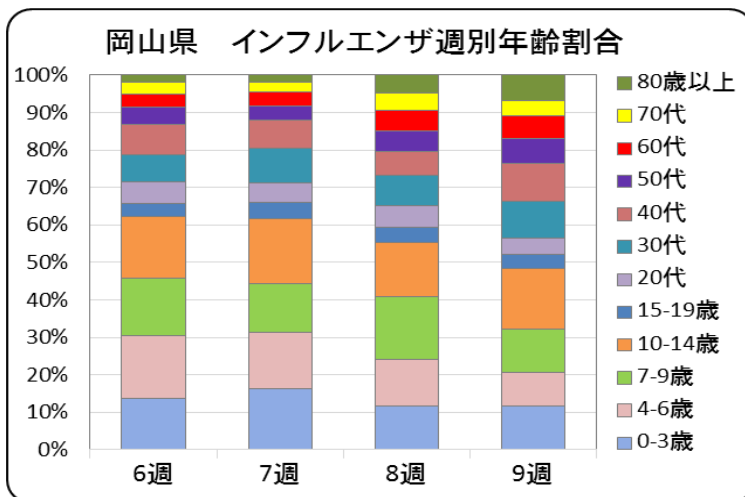
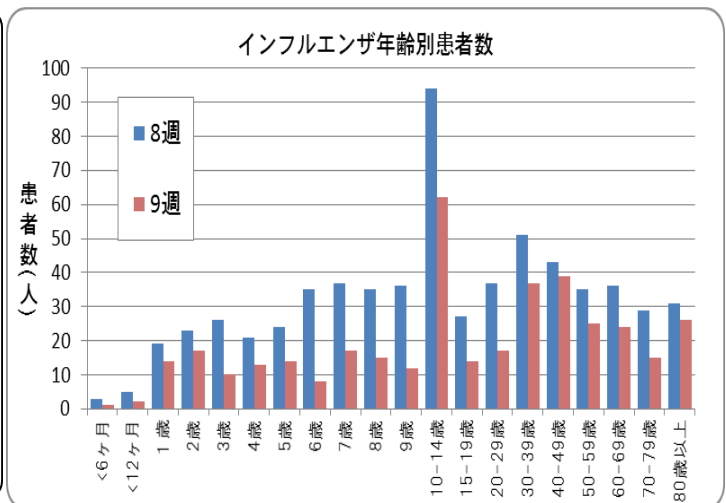
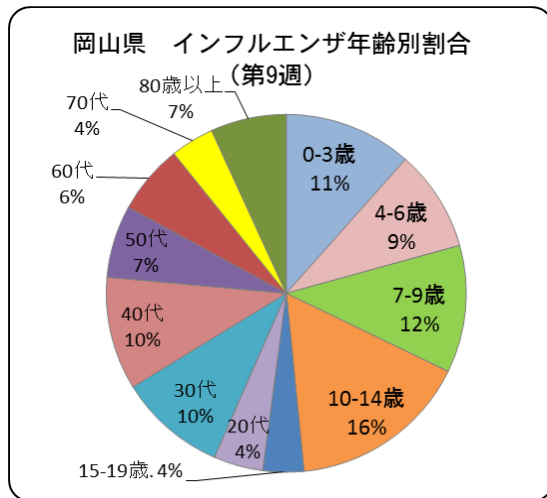
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10未満		0



全国集計第8週（2/16～2/22）速報値によると、全国の定点あたり報告数は8.26人であり、前週（12.15人）よりも減少しました。全ての都道府県で、前週の報告数よりも減少しています。

2. 年齢別発生状況

第9週の年齢別割合は、10-14歳 16%、7-9歳 12%、0-3歳 11%の順で報告数が多くなっています。すべての年齢層で前週より患者が減少しており、特に幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層の割合が減少傾向にあります。



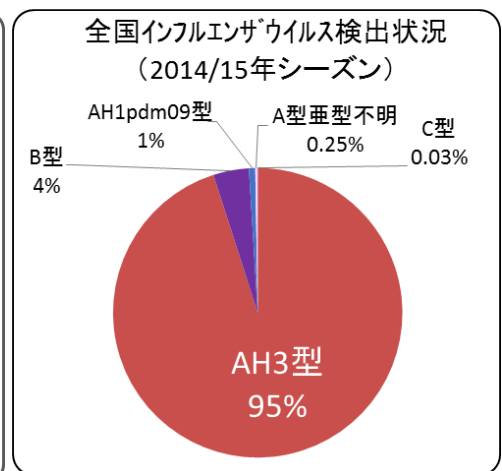
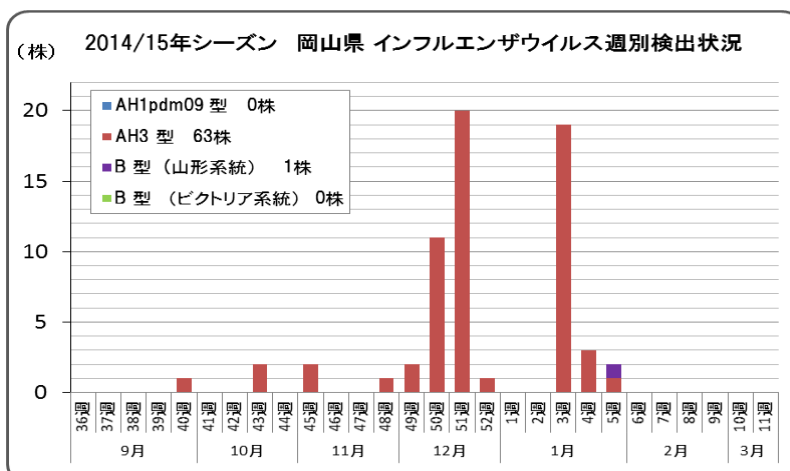
3. インフルエンザウイルス検出状況

第9週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が63株(98%)、B型が1株(2%)となっています。

[岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、岡山県と同様、AH3型の検出割合が最も多く95%、次いでB型が4%、AH1pdm09型が1%の順となっています。(2015年3月5日現在)

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

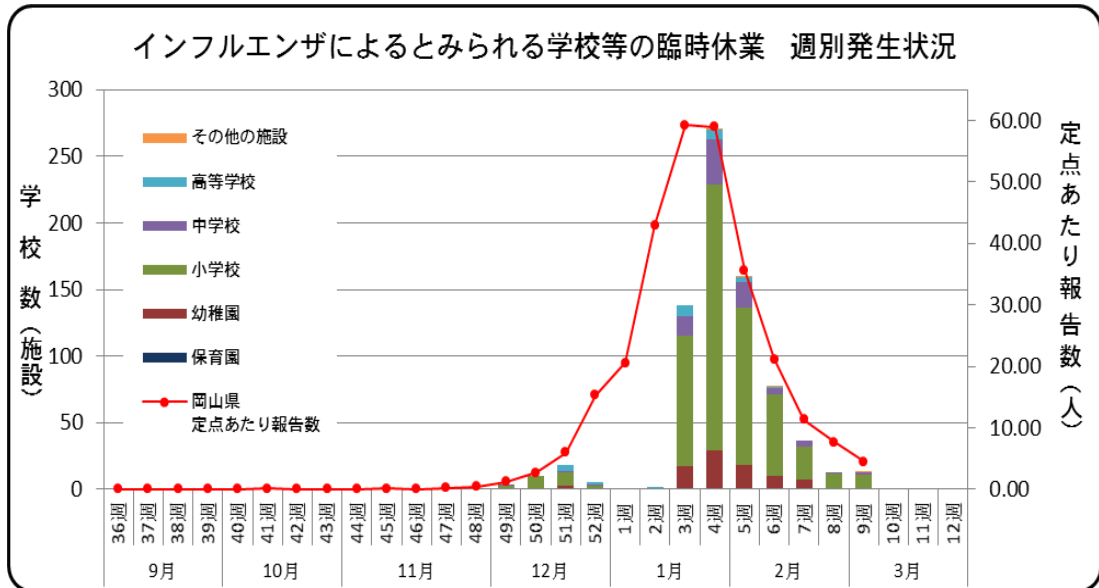


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 14 施設でありました。

【第9週 臨時休業施設数】

▽岡山市 4 ▽倉敷市 3 ▽津山市 1 ▽玉野市 1 ▽井原市 1 ▽総社市 1
▽備前市 1 ▽早島町 1 ▽矢掛町 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	136	11922	122	9301	14	751	0	16	6	185	8	550	H26.10.21
岡山市	31	4954	27	3720	4	292	0	2	1	40	3	250	H26.12.1
倉敷市	38	2826	37	2311	3	156	0	3	0	24	3	129	H26.10.21
備前地域	35	723	27	609	2	59	—	—	2	22	0	37	H26.12.9
備中地域	21	1539	21	1220	4	121	0	5	3	49	1	67	H26.12.8
備北地域	0	309	0	164	0	10	0	1	0	5	0	4	H27.1.16
真庭地域	0	205	0	172	0	19	0	1	0	10	0	8	H26.12.16
美作地域	11	1366	10	1105	1	94	0	4	0	35	1	55	H27.1.13

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第9週：14 施設

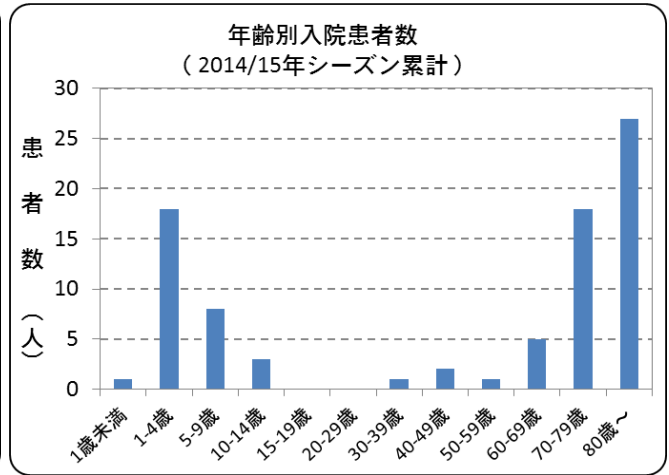
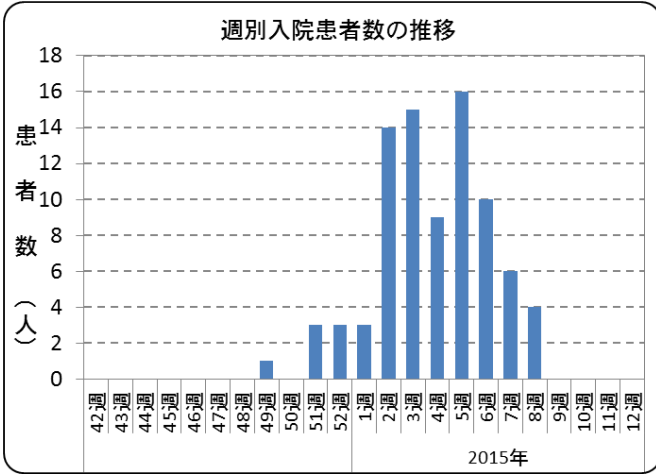
累計：751 施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	1	85	10	552	2	85	0	25	1	4

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 9 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数													0
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)													
頭部 MRI 検査 (予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず													

* 重複あり

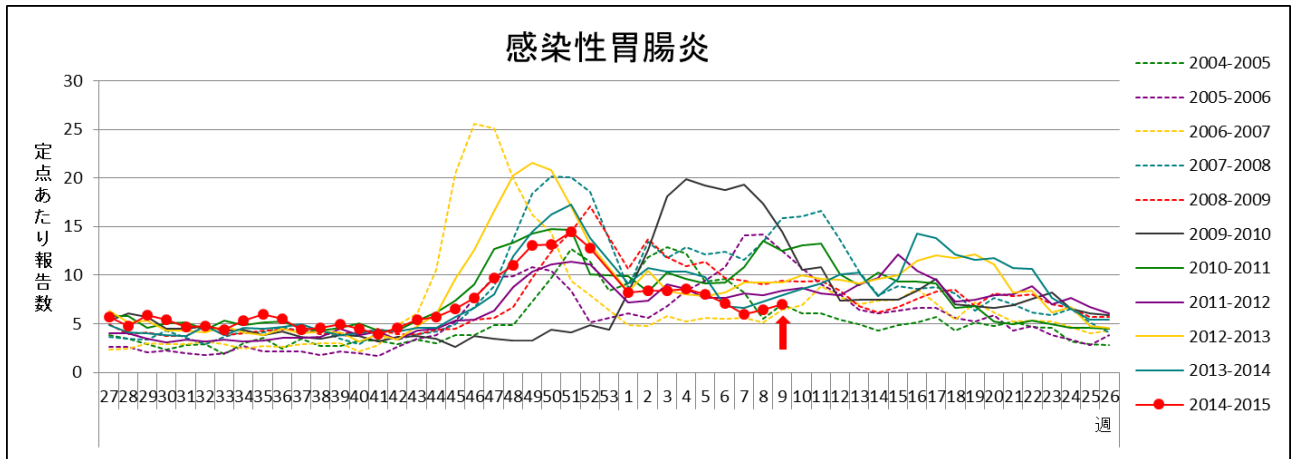
【2014年9月1日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	18	8	3			1	2	1	5	18	27	84
ICU入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)		5								2	4	3	14
頭部 MRI 検査 (予定含)		1		1							3		5
脳波検査 (予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず	1	13	8	2			1	2	1	3	12	24	67

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2015年 第9週 (2月23日～3月1日)

○感染性胃腸炎は、県全体で380名（定点あたり6.48 → 7.04人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。



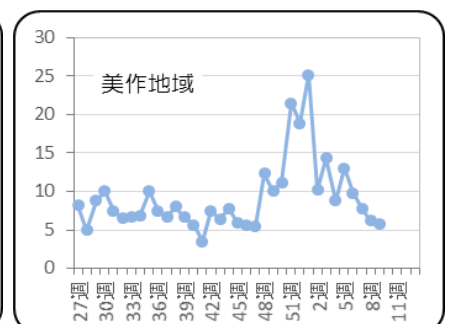
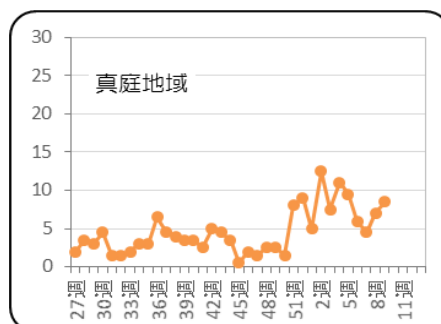
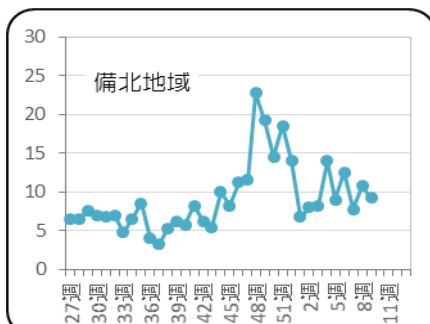
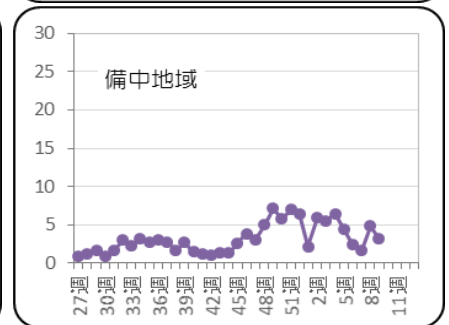
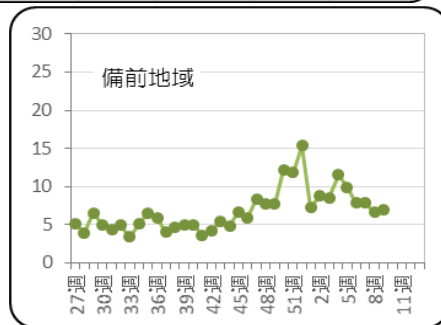
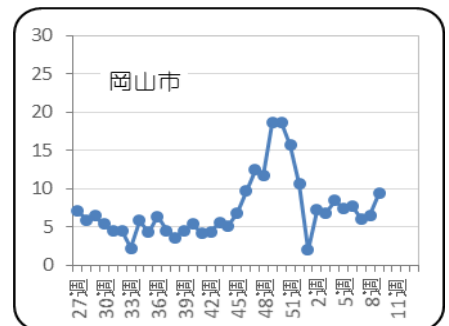
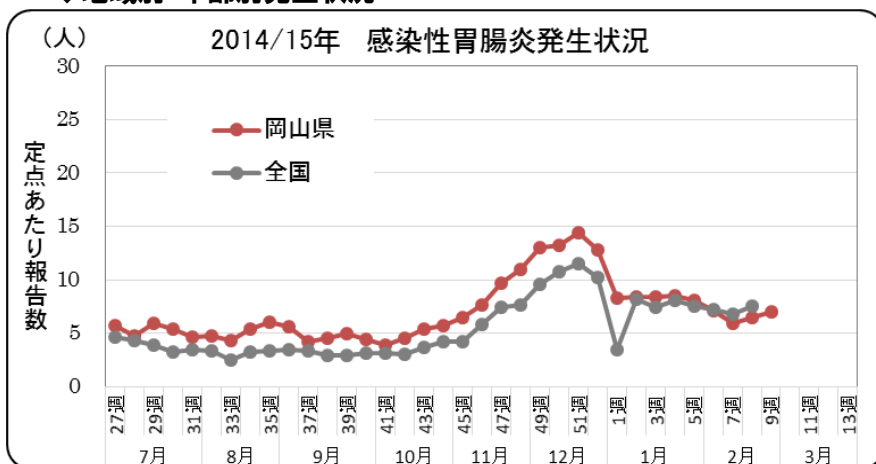
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

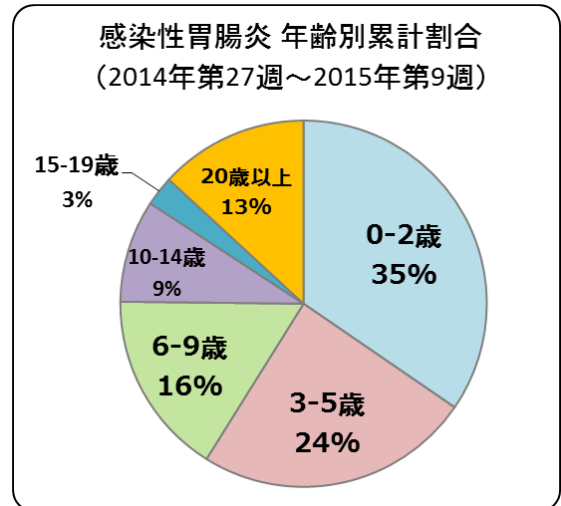
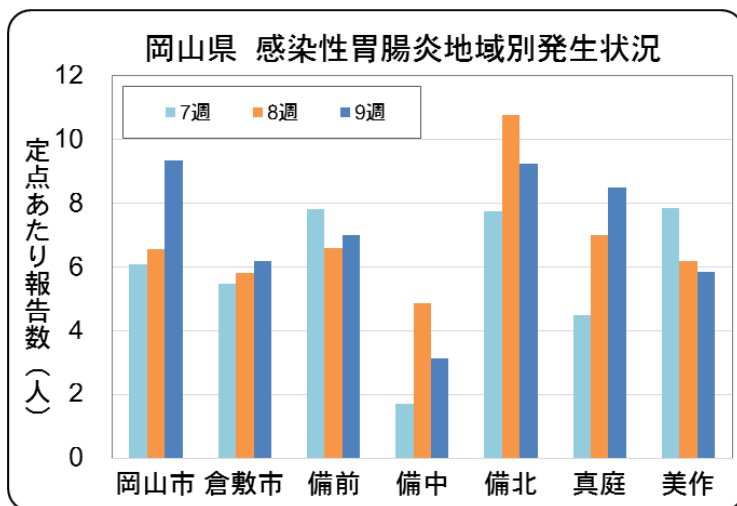
感染性胃腸炎は、県全体で380名（定点あたり6.48 → 7.04人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。依然として多くの患者が報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

[ロタウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、岡山市（9.36人）、備北地域（9.25人）、真庭地域（8.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に岡山市（6.57 → 9.36人）、真庭地域（7.00 → 8.50人）では、増加傾向にあります。年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の59%を占めています。

例年3～5月には、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[IASR Vol.35 p.63-64: 2014年3月号 ロタウイルス 2010～2013年（国立感染症研究所）](#)

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

- * 石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- * 患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。
- * 塩素系漂白剤などを使った消毒も、併せて行いましょう。
- * 通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともあります。体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県 生活衛生課）](#)

保健所別報告患者数 2015年 9週 (2015/02/23～2015/03/01)

2015年3月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	382	4.55	49	2.23	119	7.44	47	3.13	82	6.83	32	5.33	25	8.33	28	2.80
RSウイルス感染症	10	0.19	5	0.36	1	0.09	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	12	0.22	7	0.50	-	-	-	-	-	-	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	2.11	49	3.50	28	2.55	2	0.20	17	2.43	3	0.75	3	1.50	12	2.00
感染性胃腸炎	380	7.04	131	9.36	68	6.18	70	7.00	22	3.14	37	9.25	17	8.50	35	5.83
水痘	23	0.43	9	0.64	4	0.36	4	0.40	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	30	0.56	4	0.29	16	1.45	1	0.10	7	1.00	2	0.50	-	-	-	-
伝染性紅斑	4	0.07	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	23	0.43	9	0.64	8	0.73	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.83
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	1.20	6	6.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2015年 9週 (2015/02/23~2015/03/01)

2015年3月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	382	4.55	49	2.23	119	7.44	47	3.13	82	6.83	32	5.33	25	8.33	28	2.80
咽頭結膜熱	12	0.22	7	0.50	-	-	-	-	-	-	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	2.11	49	3.50	28	2.55	2	0.20	17	2.43	3	0.75	3	1.50	12	2.00
感染性胃腸炎	380	7.04	131	9.36	68	6.18	70	7.00	22	3.14	37	9.25	17	8.50	35	5.83
水痘	23	0.43	9	0.64	4	0.36	4	0.40	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	30	0.56	4	0.29	16	1.45	1	0.10	7	1.00	2	0.50	-	-	-	-
伝染性紅斑	4	0.07	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.83
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第9週 2015/02/23～2015/03/01)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	382	1	2	14	17	10	13	14	8	17	15	12	62	14	17	37	39	25	24	15	26

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	10	3	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	12	-	1	4	1	4	-	-	-	1	-	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	-	2	5	4	13	14	12	12	12	9	10	17	1	3
感染性胃腸炎	380	2	17	55	32	29	30	15	22	21	19	18	44	13	63
水痘	23	1	1	2	5	1	-	4	2	4	1	-	2	-	-
手足口病	30	-	1	16	4	3	1	1	3	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	4	-	-	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	-	16	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	-	-	-	2	1	1	3	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

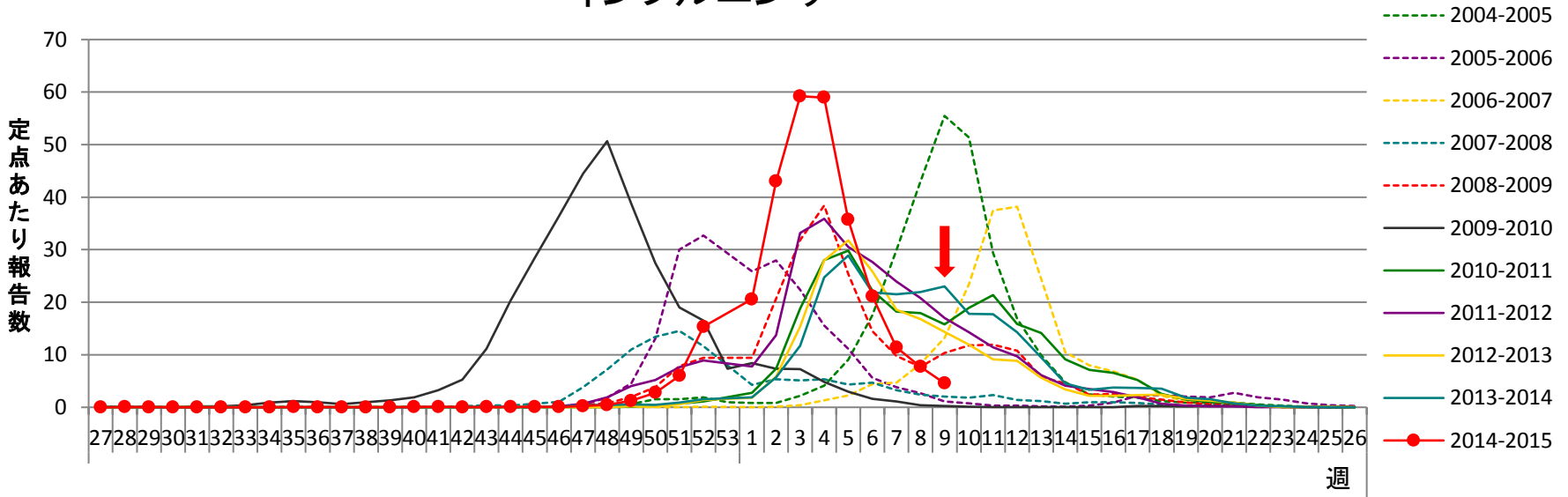
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

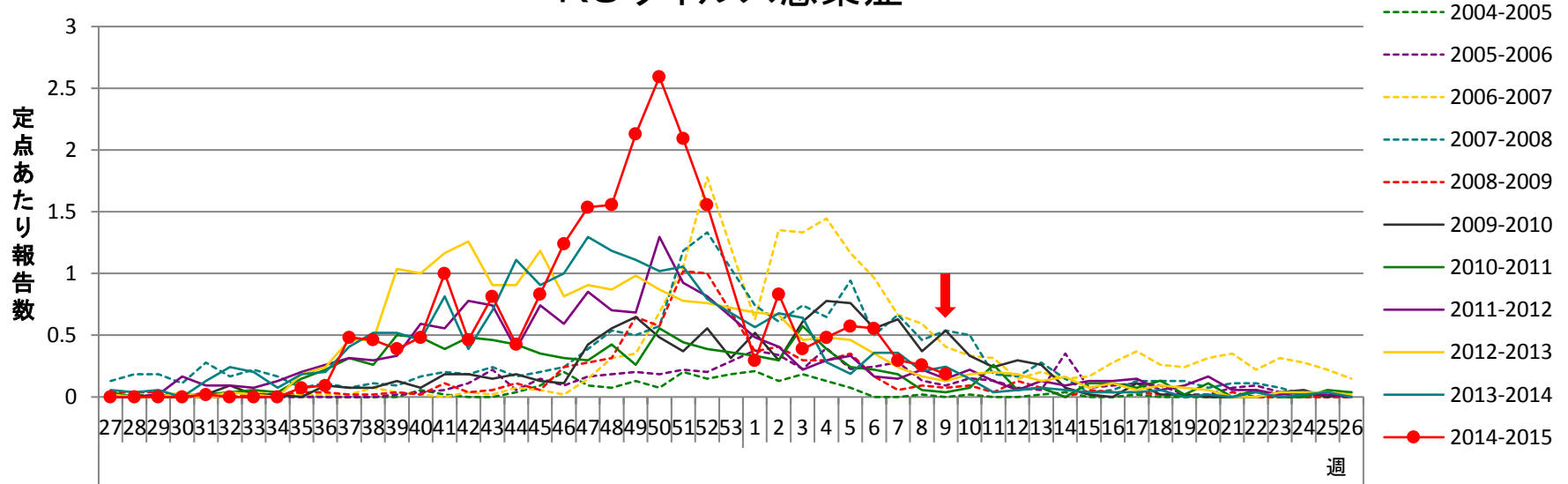
2015年 9週

分類	疾病名	2015			疾病名	2014			疾病名	2015			2014		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	45	383	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	70	-	-	-
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	2	2	8	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	4	32	レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	1	5	12	ウイルス性肝炎*3	-	2	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	5	12	-	-
急性脳炎*4		-	1	9	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	-	-	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	3	後天性免疫不全症候群	-	3	21	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	9	27	-	-	-
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	-	21	-	-	-
播種性クリプトコックス症		-	1	-	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-

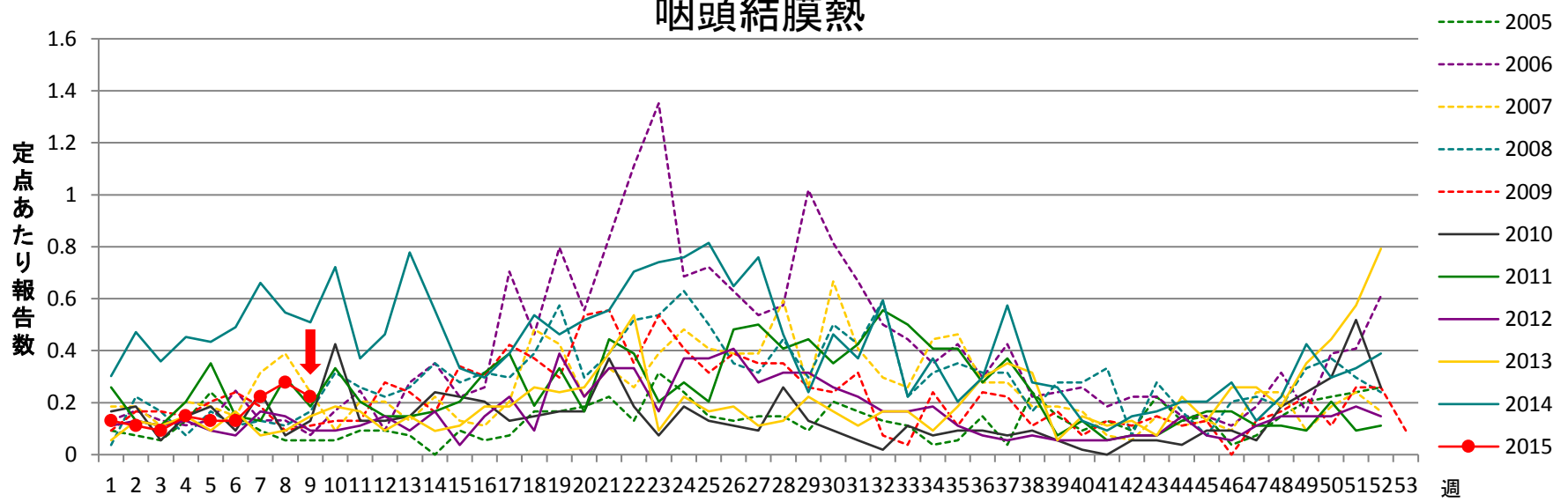
インフルエンザ



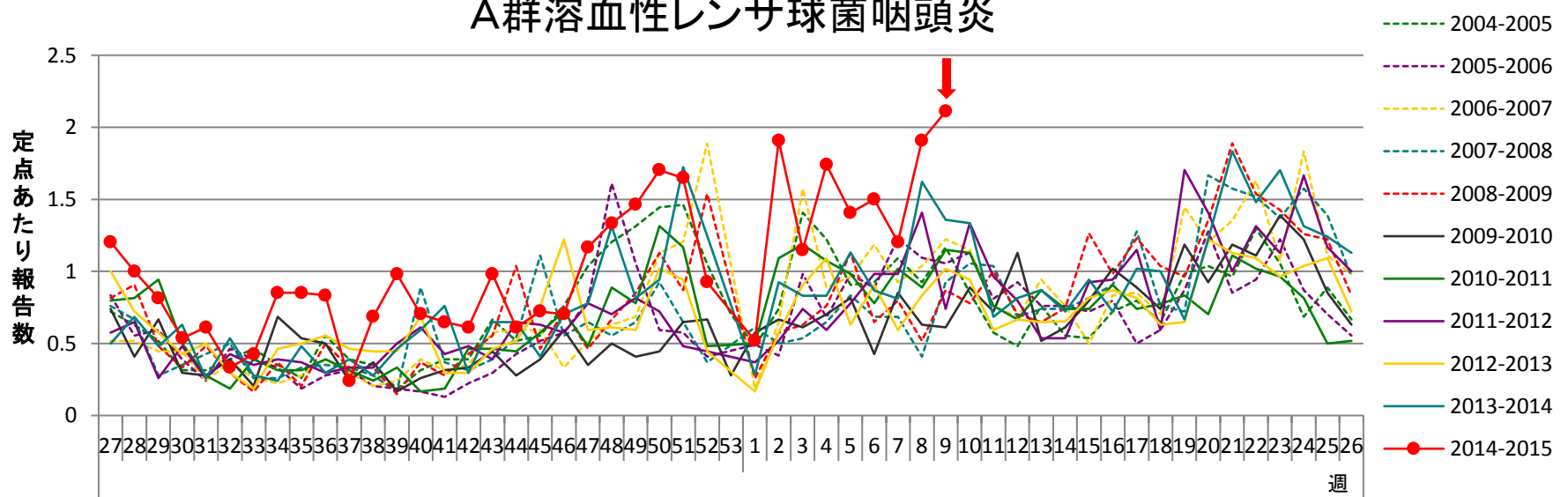
RSウイルス感染症



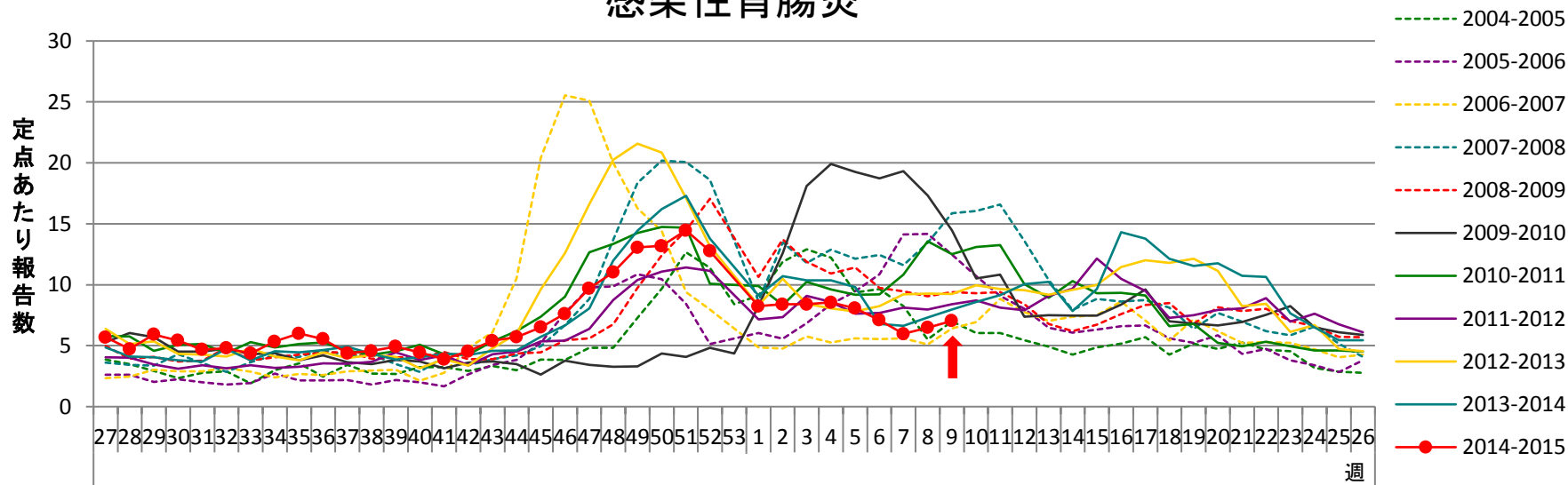
咽頭結膜熱



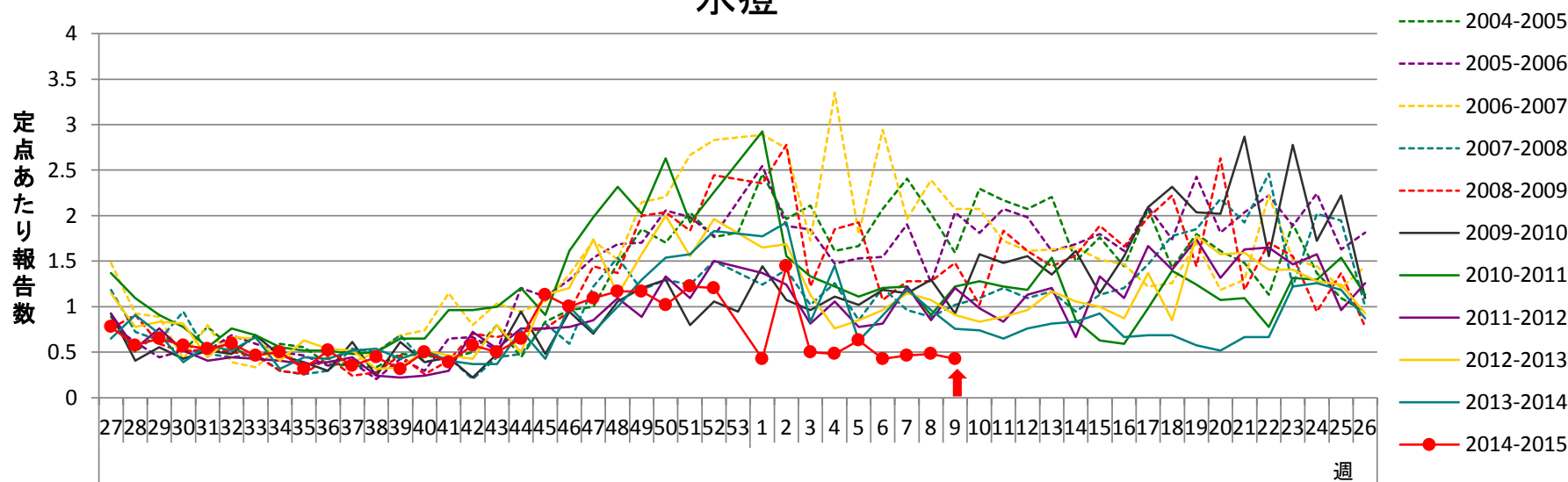
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



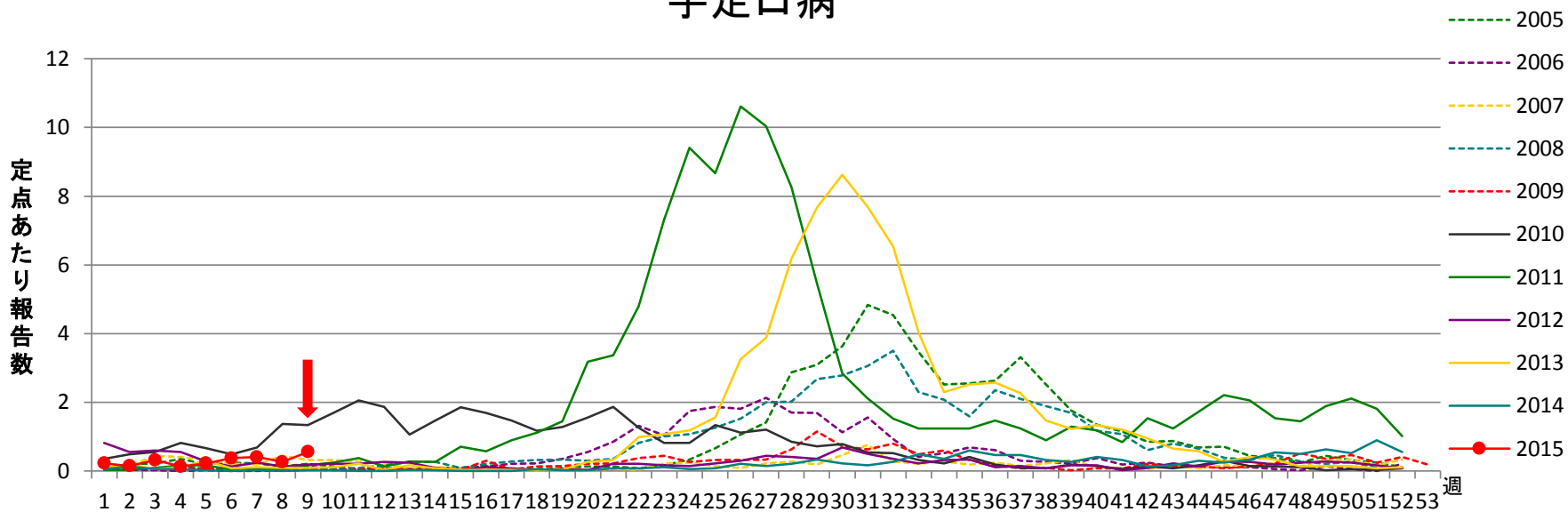
感染性胃腸炎



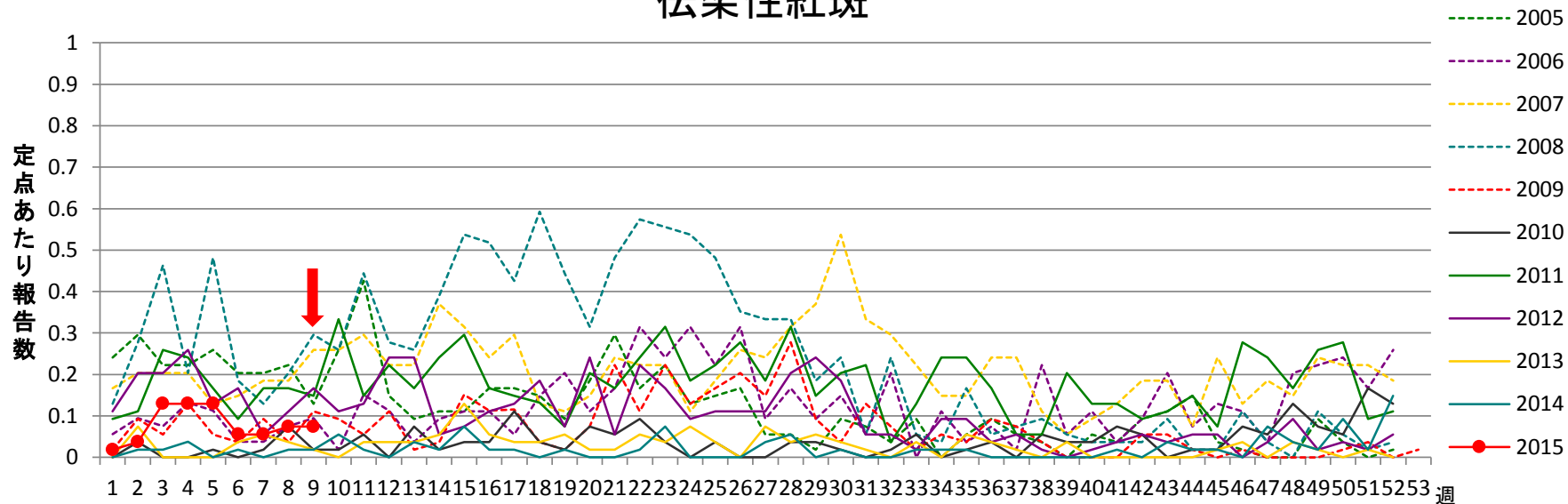
水痘



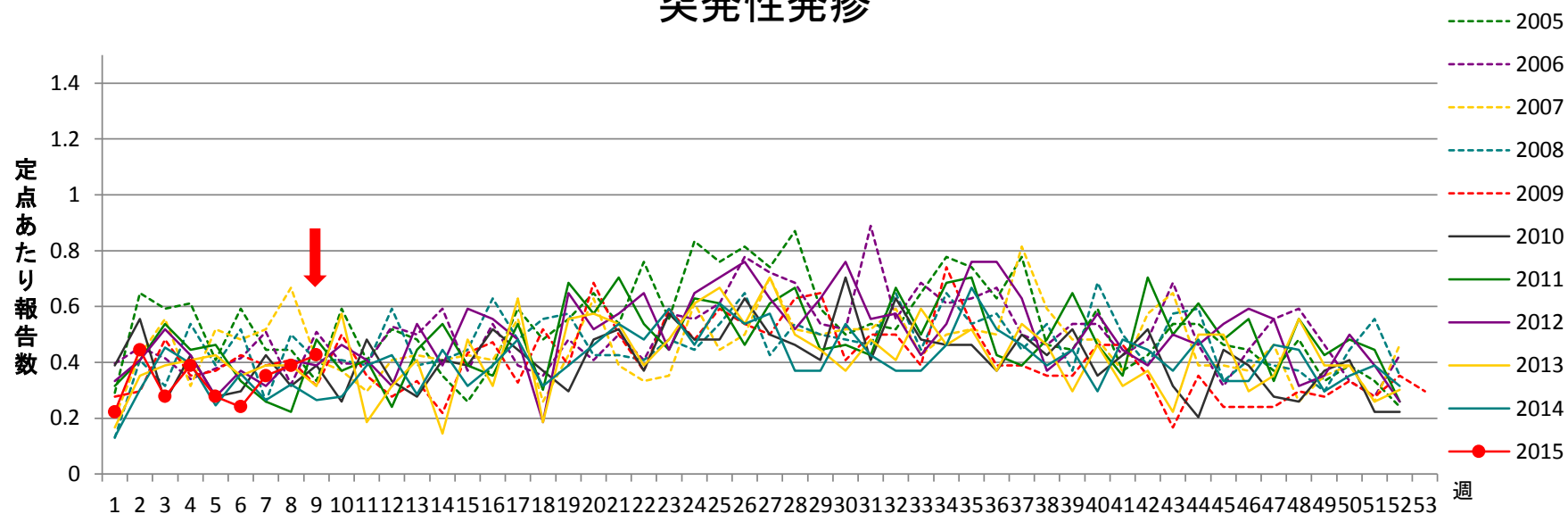
手足口病



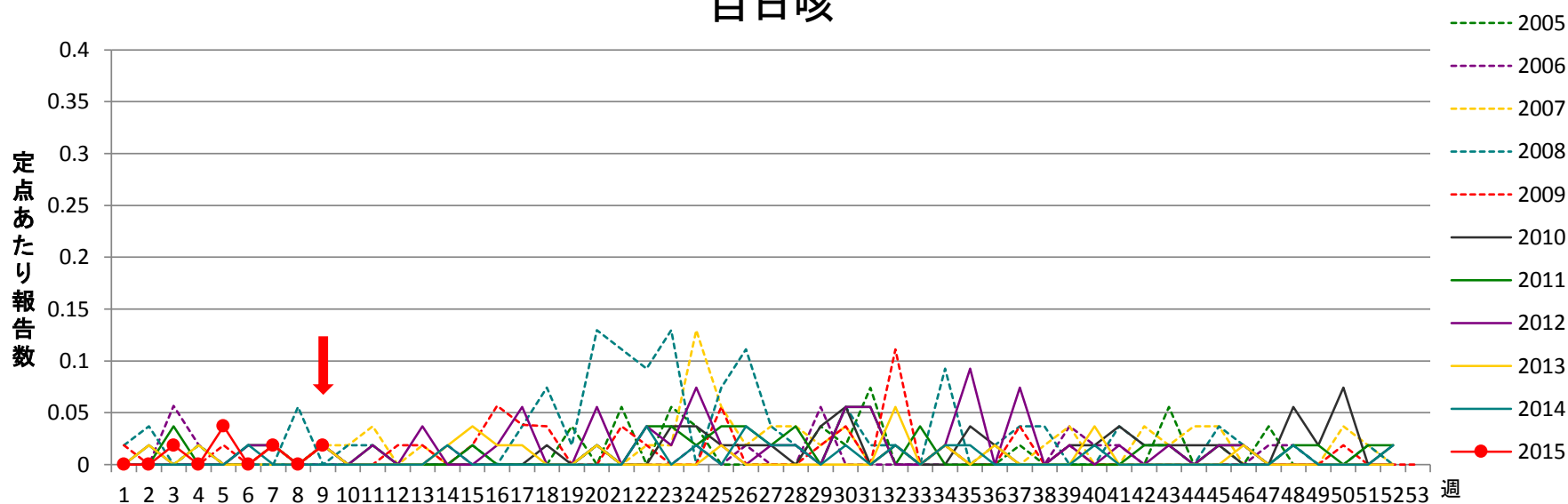
伝染性紅斑



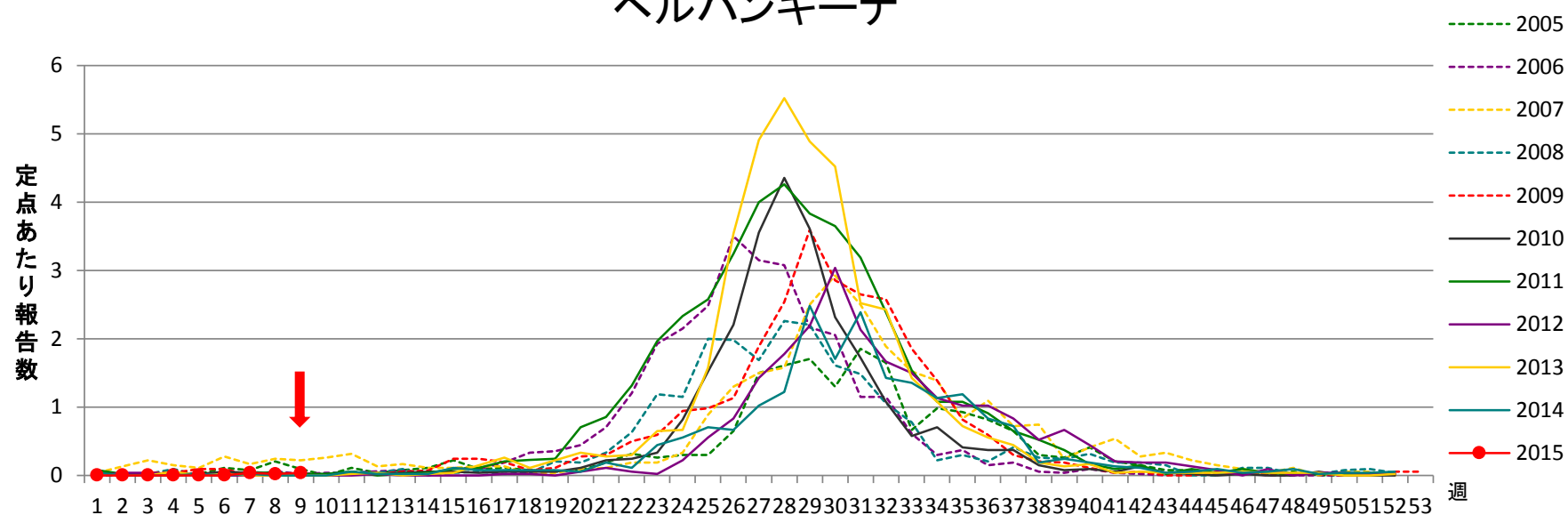
突発性発疹



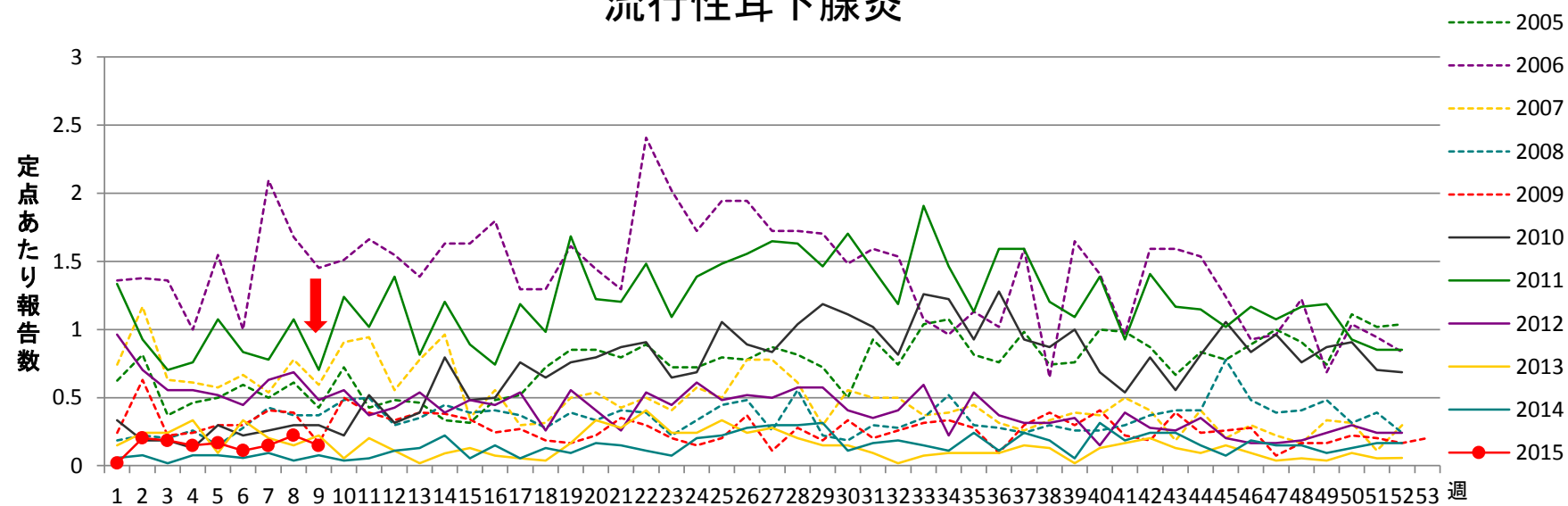
百日咳



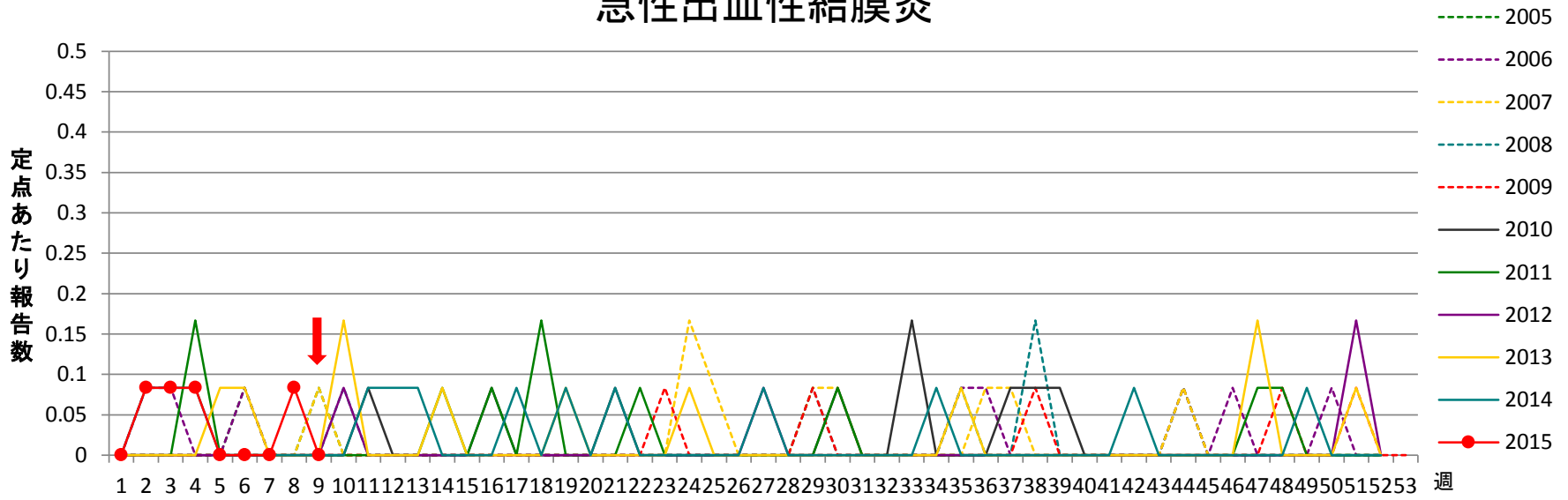
ヘルパンギーナ



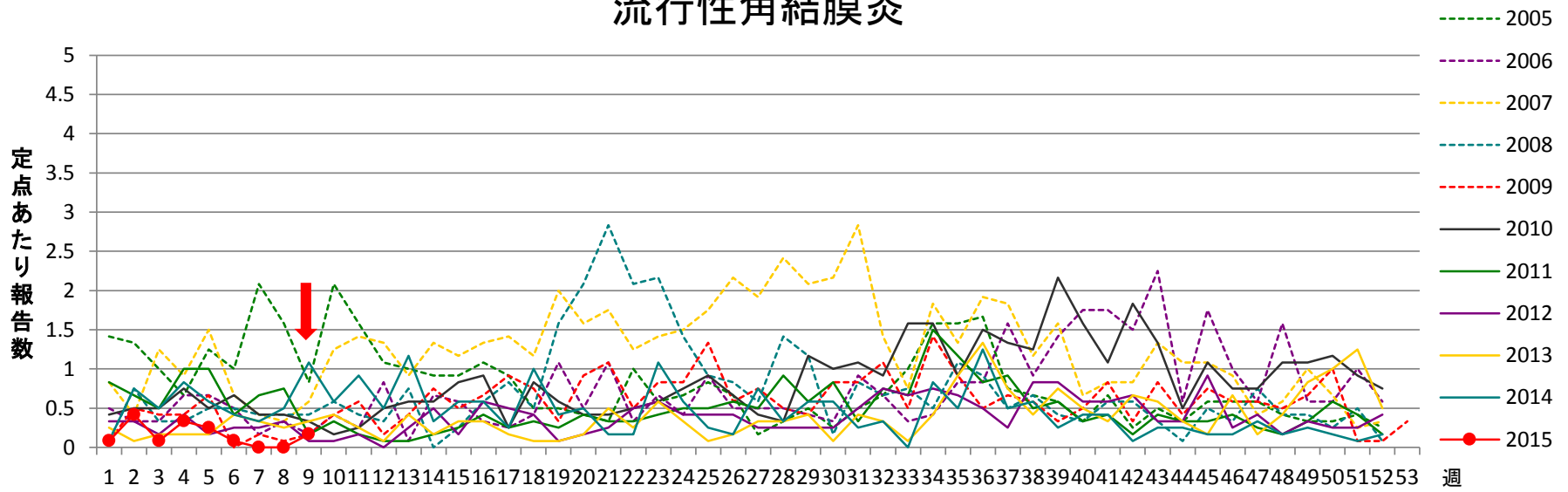
流行性耳下腺炎



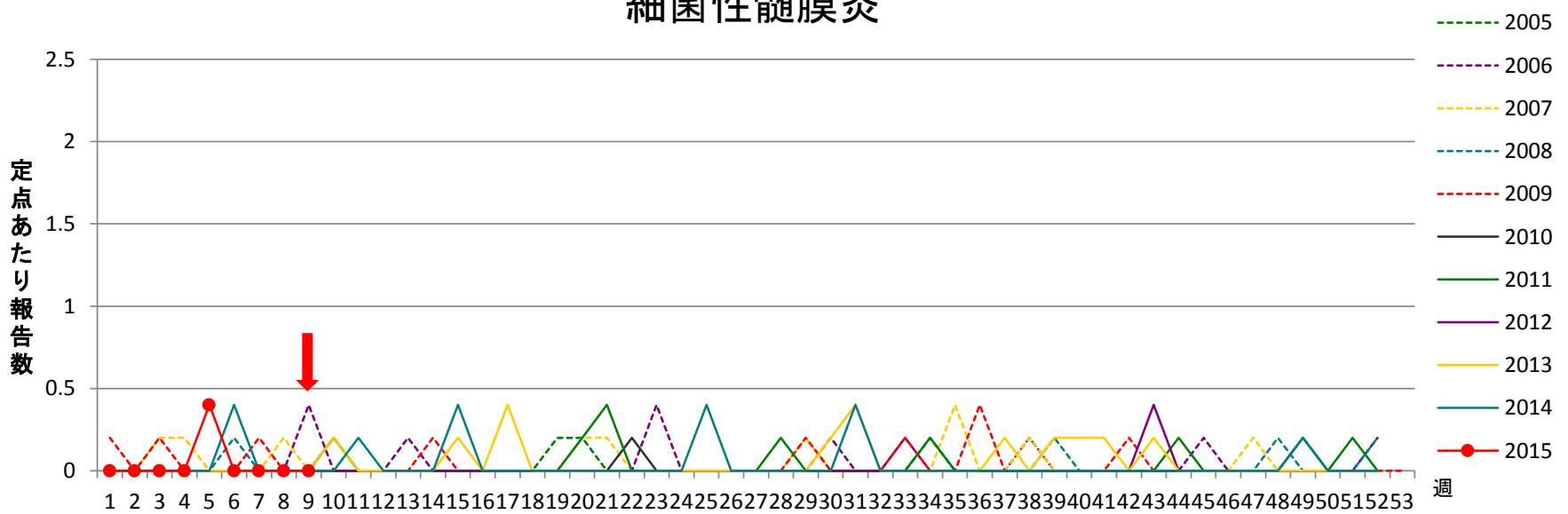
急性出血性結膜炎



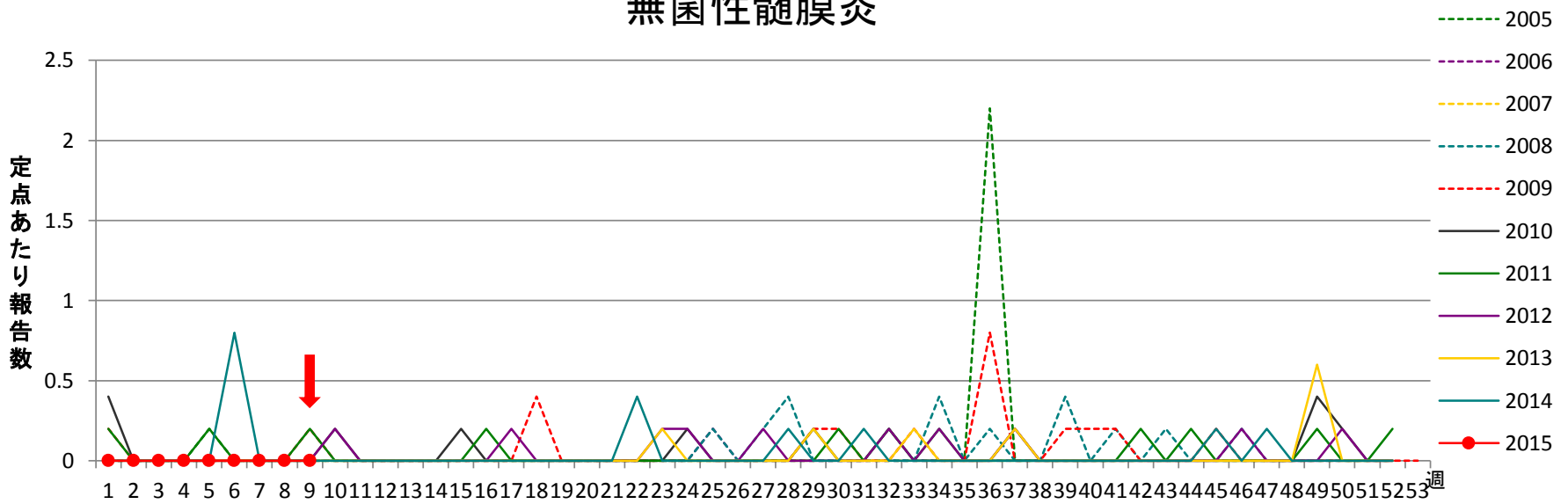
流行性角結膜炎



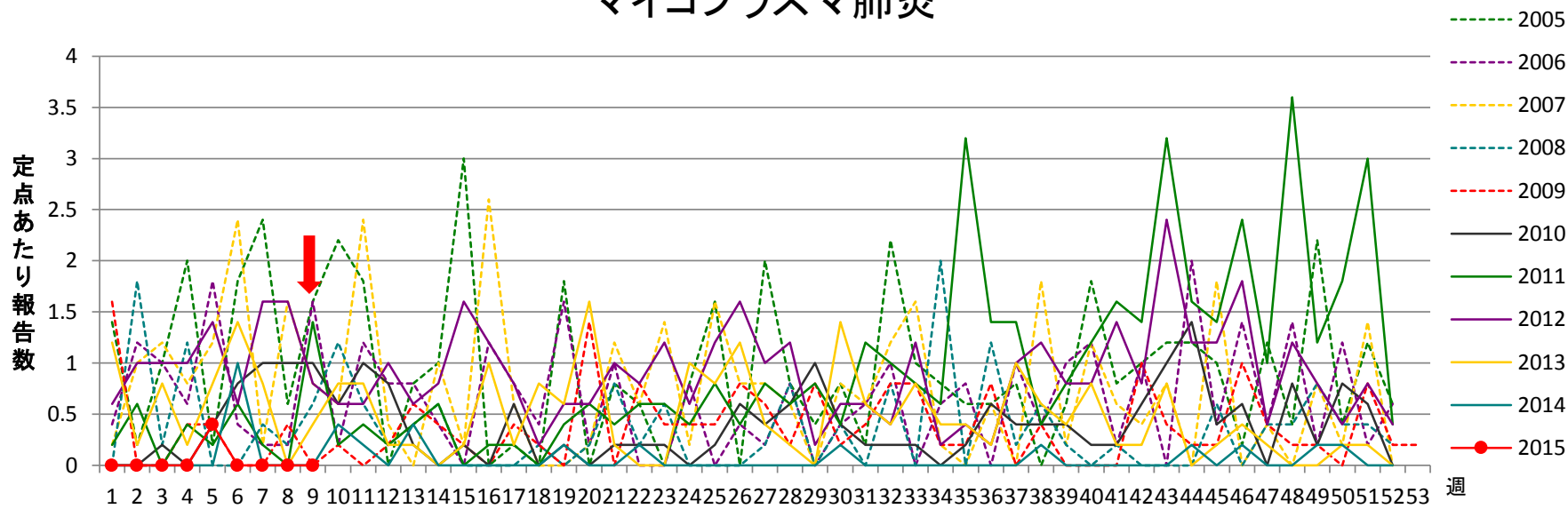
細菌性髄膜炎



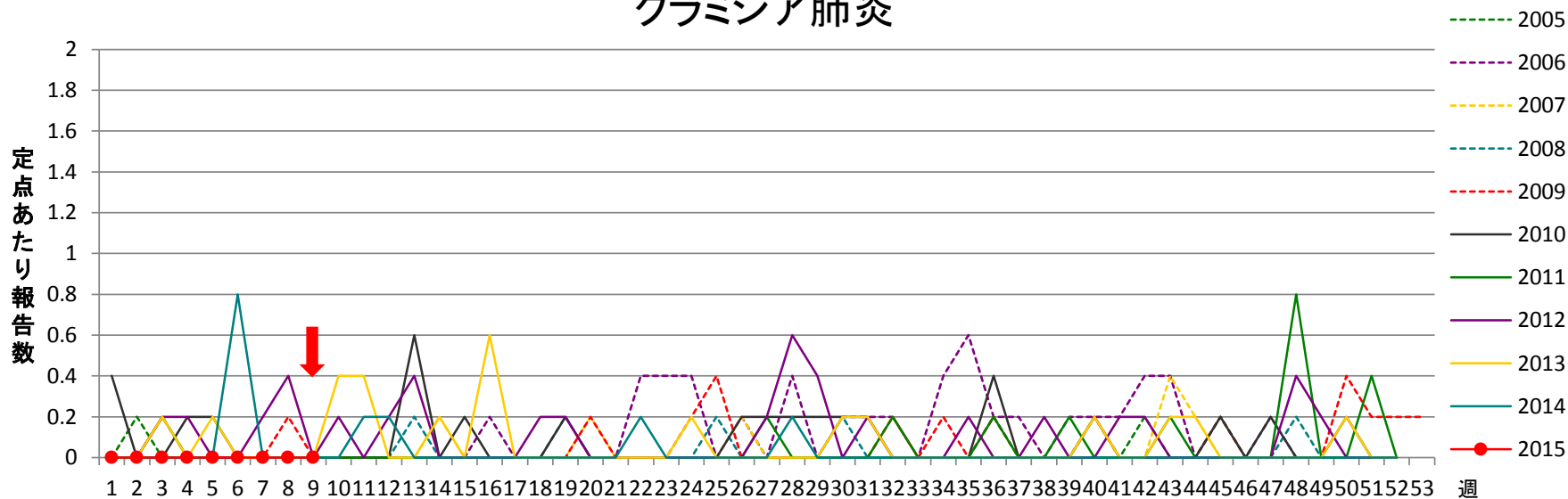
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

